Java Bronze 第3章条件文(分岐文)

if文·if-else文 / switch文

目次

- ・制御文とは
- if文、if-else文
 - 1. if文
 - 2. if-else文
 - 3. else if文
 - 4. 条件演算子
 - 5. if文のネスト
- switch文

制御文とは

・制御文…プログラムの流れをコントロールする文

Java言語には条件文(分岐文)、繰り返し文、繰り返し制御文の3種類の制御文がある

ある条件ごとに処理する内容を分けるための文

- ①if文·if-else文
- ②switch文

①if文·if-else文

1. if文

if文…条件式をもち、その条件を評価した結果に応じた 処理を行う

```
構文
if (条件式) {
処理文; // ifブロック:条件式の結果がtrueであれば実行
}
```

1. if文

```
<u>"boolean値"</u>
①条件の判定
                                              ③ ①の結果が
                       ② ①の結果が
(trueまたはfalse)
                                                 falseのとき
                          trueのとき
   ex)
    int num = 5;
    if ( num < 10 ) {
      System.out.println("numの値は10未満です");
    System.out.println("if文の後の処理");
```

2. if-else文

if-else文…条件式の結果がtrueだったときだけでなく、falseだったときの処理も記述

```
      構文

      if (条件式) {

      処理文1; // 条件式の結果がtrueのときに実行 (ifブロック)

      } else {

      処理文2; // 条件式の結果がfalseのときに実行 (elseブロック)

      }
```

2. if-else文

```
<u>"boolean値"</u>
①条件の判定
                       ② ①の結果が
                                             ③ ①の結果が
(trueまたはfalse)
                         trueのとき
                                               falseのとき
   ex)
    int num = 20;
    if ( num < 10 ) {
     System.out.println("numの値は10未満です");
    } else {
     System.out.println("numの値は10以上です");
```

3. else if文

else if文… 3 分岐以上の多分岐処理を行う

```
構文
if (条件式1) {
 処理文1; // 条件式1の結果がtrueのときに実行(ifブロック)
} else if (条件式2) {
 処理文2; // 条件式2の結果がtrueのときに実行(else ifブロック)
} else {
 処理文3: // 条件式1および2の結果がfalseのときに実行(else ifブロック)
```

3. else if文

```
①1つ目の条件判定
(trueまたはfalse)
```

- ② ①の結果が trueのとき
- ③ ①の結果が falseのとき 2つ目の条件判定
- 4 ③の結果が trueのとき

```
(trueまたはfalse)
ex)
char c = 'c';
if ( c == 'a' ) {
  System.out.print/("cの値はaです");
                                                   ③の結果も
} else if ( c == 'b' ) {
                                                   falseのとき
  System.out.println("cの値はbです");
} else {
  System.out.println("cの値はaでもbでもありません");
```

4. 条件演算子

条件演算子…条件式の結果がtrueなら式1を返し、 falseなら式2を返す演算子

構文

条件式?式1:式2

ex)

String str = "numの値は";

条件式の結果がfalseなら str += "10以上";

str += num < 10 ? "10未満" : "10以上";

条件式

条件式の結果がtrueなら str += "10未満";

4. 条件演算子

- ・条件演算子はif文より短くて簡単に書ける
- ・条件演算子は、条件によって代入する値を変える という処理でよく使う
- ・条件演算子は値を返すためのもの 条件によって行う処理を分けたいときは、普通にif文を 使う

5. ifのネスト

• if文は、ブロック内にさらに別のif文を記述することができる

これを ネスト (入れ子) という

ネストを使用すると条件を重ねることができる

②switch文

1. switch文

switch文…多分岐処理

式の評価結果値のデータ型は byte, char, short, int, enum, String

構文

```
switch (式) { // switchブロック
 case 定数1: // 式の結果が定数1と一致したとき、以下の処理文を実行
   処理文1;
 case 定数2: // 式の結果が定数2と一致したとき、以下の処理文を実行
   処理文2;
 default:
             // どのcaseにも一致しなかったとき、以下の処理文を実行
   処理文n;
```

1. switch文

```
ex)
switch (i) {
                      ① iが1のとき
  case 1:
     System.out.println("1");
                                           break文があるので
                                           switchから抜ける
     break;
                     ② iが2のとき
   case 2:
     System.out.println("2");
                                  break文がないので
                                  続けてdefaultの処理
  default:
                                  文を実行
     System.out.println("default");
```